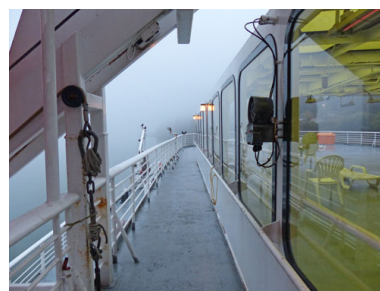
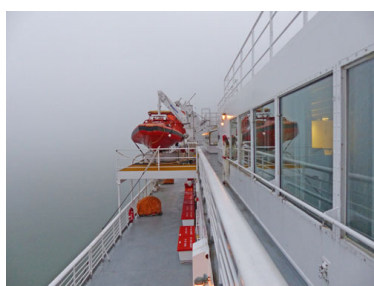
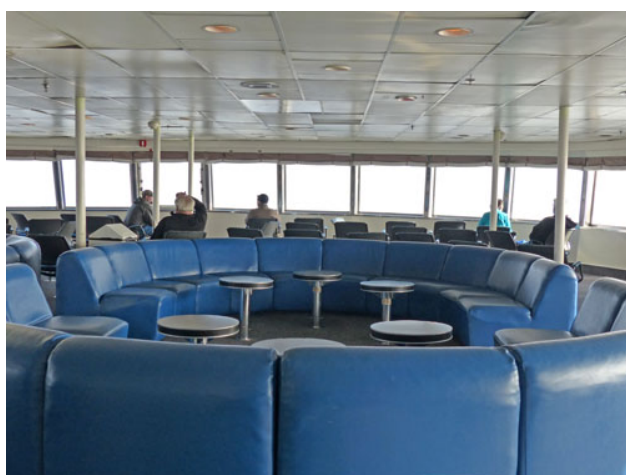


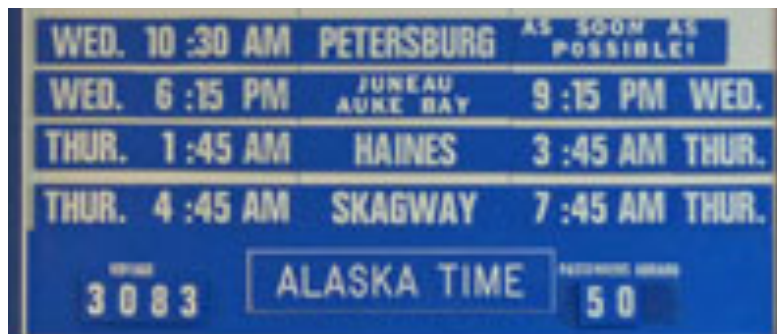
4143 **カナダ・アラスカの旅：船旅はロマン** 02

船上の人となって、まず、最初にするのは、
今、自分が置かれている環境や状況が、どんなになっているのか、の確認。
救命具、どんなコースで、所要時間は、どんな人が乗船しているのか、等々、最小限の確認。
大きな船である。部屋に落ち着くと、船内を、くまなく探検。



健康体が資本。車から解放されたこともあって、足腰の訓練にもなる。
大阪南港から九州・鹿児島へのフェリー、京都舞鶴から、北海道・小樽までのフェリー、
その他、東カナダでのフェリーなど体験しているが、
今回のこのコースは、単純でなく、島々の、細い航路をぬっての航行。

島々が見えるので、楽しみ。しかし、船員さんは、港、港では忙しそう。
水の流れもあって、専属の水先案内人もおられる。航行の海面を見ていると、肉眼でも、
急流の様が、見てとれる。下記、乗船下船を繰り返しながらの航行。
話が前後するが、本の出版や、新聞連載には、神経を使うが、ホームページも、
後に残るので、注意しないとにならないが、つつい思うままに、本の難しさを痛感している。
反省することが多いが、つつい、そのまま、どうか、乱文、ご容赦のほど。



前回は、ジュノーで下船、ロシア正教会など、興味深い建物や文化を堪能したが、
今回は、ヘインズで下船と、決めていた。到着は、真っ暗な夜中。
寝過ごすわけにはいかないので、目覚ましを使うとしても、時間配分が、大きな課題だった。
何しろ、ひとり旅、自業自得の、自己責任。誰も助けてくれない冒険の旅。
袖すり合うも、他生の縁。人様との出会いも楽しく面白い。教えてもらうことが多い。
緊張、緊張、弛緩しかんの繰り返し。だから、旅が、面白いとも言える。

